

『反応』

R 4 . 6 . 2

本校は中国紹興市文瀾中学と平成20年2月に友好交流関係を樹立しました。今から14年前のことになります。

その後、相互に友好訪問団を派遣し合いながら今日に至っています。コロナ禍前の令和元年には双方の生徒が互いに訪問しました。

残念ながらその後2年間、訪問団の派遣は中止となり交流ができない状態となっています。

中国紹興市との中学生の交流は、昭和59年、つまり旧福光町の時代から綿々と続いてきました。いうまでもなく、日中国交正常化に尽力された福光出身の政治家松村謙三先生と紹興出身の周恩来先生の友情から始まったものです。

と、知ったかぶりをして書いていますが、訪問団に参加された教員の方々でつくる南砺市日中友好教育会の先輩方に先日、教えていただきました。

本題です。昨日、その文瀾中学とオンラインで交流をしました。参加者を募ったところ、本校では3年生を中心に15名の応募がありました。

15時30分。ドキドキしながらスクリーンを見つめます。映りました。向こうは30名以上の参加。交流が始まり、互いに英語で自己紹介します。文瀾中学の生徒の描いた絵を見て、「上手!」「かわいい!」といった声が飛び交います。紹介が終わった後の拍手にも力が入ります。互いに質問し合った場面では、中国のインターネットとの付き合い方について、身を乗り出して聞いていました。

最後にお互いに出し物を披露。文瀾中学は民族衣装?を着た生徒が美しい歌声と踊りを披露してくれました。ここでも、「きれい!」「すごーい!」といったつぶやきが聞こえます。こちらは、音楽に合わせてダンスを披露。ノリノリで踊りました。

画面に手を振って終わった後、「あー楽しかったあ。」「もう一回やりたい!」という声。この様子を見ていて、子供たちの素直な反応がとても素敵だなと思いました。大人たちの型にはまったやりとりではなく、子供たちの瑞々しい感性によるやりとりが、きっとこの絆を深めていき、世界平和に貢献するのだろうと期待せずにはいられませんでした。